

2020年度しあわせ研究  
通信教育課程の大学生の大学生生活満足度  
とライフスタイルの関連について

研究員 野口普子、成澤知美  
浜崎景、松岡豊



近年の急速な社会的変化に加え、COVID-19によって、大学生のライフスタイルは大きく変容しています。これまで、通信制の大学は社会人学生が多く、仕事や家庭と大学での学びを両立できるようなサポートが求められてきました。しかし、最近では10・20代若者の割合も増えています。

幅広い年代の学生達が大学で学びたいという意欲が持続できるようにサポートしていくことで、学生生活の充実や満足度につながっていくと考えました。そこで、通信制に所属する学生について、現時点での大学生生活に対する満足度や意欲、そしてライフスタイルの状況について明らかにすることを目的に調査を行いました。

対象は、武蔵野大学通信教育部に通う学生としました。方法は、任意で無記名のオンラインのアンケートに回答を依頼しました。

質問項目は、人口統計学的背景のほか、大学生生活満足度については大学生生活充実度尺度 (SoULS21) (奥田ら, 2010)、大学生生活についての意欲は、意欲低下領域尺度(下

山, 1995) を用いました。ライフスタイルについては DIHAL2 健康度・生活習慣診断検査 (徳永, 2005) を用いました。

また、調査は倫理審査による承認を得て実施しました。

結果は、300名 (男性:54名、女性:240名、その他6名) から回答を得ました。また、平均年齢は  $43.7 \pm 11.0$  歳 (幅 19-73 歳) と幅広い年代から回答が得られました。

現在、解析中ではありますが、年齢と SoULS21 の大学生生活に対する「不安のなさ」については、年齢が上がるにつれて不安が低く、年齢と意欲低下領域尺度の「大学意欲低下」では、年齢が低いほど意欲の低下が起きやすいことが認められました。

今後は解析を進めて、ライフスタイルとの関連についても検討を進めていきます。

幅広い年代の学生が所属する通信制大学では、学生のニーズも多様化しています。COVID-19 によってオンライン授業が増えたことにより、通学制と通信制の学生生活で重なる部分も出てきました。また、日常生活の変化は目まぐるしく、日々の変化に柔軟に適応することが学生にも大学側にも求められています。今後は、在学生の特徴やニーズを明らかにしながら、学生生活に対する支援のありかたについても検討していきたいと思えます。